



広島中央トピックス

地元特産を学校給食に 講習会で4品提案



J A女性部広島中央地区本部は、東広島市立学校教育研究会に協力し、地元産の農産物を使った料理の伝承に取り組んでいます。同研究会が8月21日、広島県学校給食総合センターで開いた講習会には、女性部ブロック長7人が講師として参加。栄養士委員会の9人に料理の作り方を伝えました。

女性部は、季節ごとの4品を提案。夏の地元特産品「大型ピーマン」を使った「でかじゃが」や「押しずし」などを調理しました。

同市は、システムを開発す



▲栄養教諭(右)に押しずしの作り方を教える女性部員



▲栄養教諭(右)と肉じゃがを作る女性部員

るなど、学校給食での地場産率向上に力を入れています。同委員会の栄養教諭らは生産者取材し、農業の現場を動画に撮って教材に活用しています。

女性部との講習会のレシピは給食の献立に活かす他、地場野菜を家庭でも積極的に取り入れてもらえるよう、保護者向けの情報発信を行なう予定です。

西条小学校の佐戸谷幸太栄養教諭は「教わった調理法や味を地域の食文化として子どもたちに伝承していきたい」と力を込めました。

コシヒカリ稲刈り 管内南部からスタート



J A広島中央地域管内で、8月中旬から稲刈りが始まりました。8月21日には、黒瀬町の村岡利博さんが水田40aの米を収穫。今年は春の天候不順や夏の猛暑などの影響が心配



▲コシヒカリを収穫する村岡さん

されましたが、例年とほぼ同量の収穫量となりました。出穂期以降高温で推移したため、昨年より3日早く収穫期を迎えました。

今年は早い時期からカメムシ類の被害が懸念されたことから、JAは出穂前、出穂後の2回の基幹防除徹底を広報誌やLINE(ライン)などで生産者に呼び掛けてきました。黒瀬アグリセンターでは3回目の仕上げ防除も推奨しました。

村岡さんは「消費者においしいお米を食べてもらいたい」と話しました。東広島市のJA産直市3店舗は、6月から販売する米が不足し、欠品が続いていました。JAは、新米を8月下旬から店頭に並べることで消費者の要望に応えました。

ブドウ栽培に情熱 豊栄町の奥田温子さん



豊栄町の奥田温子さんは、ブドウの栽培に情熱を燃やしています。「シャインマスカット」「ピオーネ」「グインニーナ」を栽培し、11月まで約1200房の出荷を目指します。

奥田さんは2011年、兼業で野菜の栽培を始め、JA産直市などに出荷してきました。せっかく育てた野菜を収穫後に根から処分するのがもったいないと感じるようになり、植え替えがなく、好物でもあったブドウの栽培を始めました。2019年に2本植え、東広島市園芸センターの講座で技術を教わりながら本数を



▲シャインマスカットを集荷する奥田さん

増やし、現在は18本を栽培。直売所を開設して販売する他、JA「とれたて元気市」となりの農家店にも出荷を計画しています。

大粒で糖度の高いブドウ作りを目指す奥田さん。「余すことなく楽しんでもらえるよう、ぶどう飴などの加工品にも挑戦したい」と展望します。

なるほどえ〜のう！ 営農情報

水稲

令和6年度は、米をめぐる情勢が大きく変化した年として記録にも残りそうです。今月号では3点に焦点を当て、課題提起します。

◆令和の米騒動について

今年の8月以降、スーパーなどの小売店の棚から米が無くなる事態となりました。テレビで連日「米不足」の報道が流れ、消費者は「米」が手に入らなくなるといふ不安感から、米を求めて流浪する現象が起こりました。

農林水産省は「米の需給は逼迫していない」とのコメントを繰り返していましたが、スーパーなどの店頭で米が並んでない状況が続きました。

このような深刻な米不足は、冷夏により作柄が著しく低下したことで作況が74となった「平成の米騒動」と言われる平成5年と、東日本大震災の影響で一部の米が流

通できなかった平成23年以来となります。

米は、日本の主食であるため、消費量は一定の水準で推移しますが、1人当たりの消費量は徐々に減少しており、近年の1人当たり年間消費量は50kg程度と推定され、平成元年の70kgと比べると20kg減少している状況です。

農林水産省では年間の消費量と生産量を試算し、供給が多ければ飼料用米や転作作物により主食用米の生産面積を減らして需要と供給のバランスを図り、米価と供給量の安定化に取り組んでいます。こうした状況のなか令和5年度産米では、新潟をはじめとする米の主産地の北陸産地が作況97のやや不作と高温による品質低下により、精米時の搗精歩留まりも悪く販売数量が減少しました。これに加え、アフターコロナによる外食産業やインバウンドの回復により需要が伸びたことや、8月には南海トラフ地震の防災に向けた備えにより、米の買い占めが起こり更に米不足に拍車がかかりました。

ここで問題になるのは作付面積の減少です。令和5年度産の全国的主食用水稲作付面積は124万2000haでした。前年度と比較すると9000ha減少し、生産量で換算すると7万7000t減少しています。10年前の平成25年と比較すると28万ha作付けが減少

し、生産量も155万8000tも減少しています。わずか10年で19%生産量が減少しているのが現状です。水稲の作付面積がこれ以上減少すると食生活を支える米の供給は、今後慢性的に不足することも考えられます。

◆米価の上昇について

令和6年度産の「コシヒカリ」1等の概算金は8500円です。令和5年度産は6220円でしたので、実に3割を超える価格上昇となりました。小売店での5kg精米の価格は今年の夏までは2000円台前半が主流でしたが、8月以降の小売価格は3000円台が主流となりつつあります。

今まで肥料農薬や農業機械の高騰に稲作経営は非常に厳しい環境にありましたが、米価の上昇により一段落といったところででしょうか。米は生活を支える必需品であることから年間を通じ安定した供給が求められます。そのためには、生産者の生産意欲の向上と生産面積の確保が必要です。消費者に米作りに係る生産コストや、年間を通じた安定供給をするための保管や流通コストなどを理解してもらい、持続可能な農業につながる適正な米価格にすることが重要です。

今の米価を維持しなければ、生産者の減少や作付面積の減少など

により近い将来、国産米の生産量の確保も厳しい状況になると考えられます。

◆カメムシ類の被害拡大について

今年度の検査では特に南部域での「カメムシ類」の被害粒が多くみられました。以前にも掲載しましたが、特に大型の「イネカメムシ」は以前からほぼ絶滅したものと考えられたため、研究や対策がほとんど行なわれていませんでした。広島県では3年前に突如、安芸津の圃場で発生がみられ一気に分布が拡大しました。今年度、多発した圃場ではまさに激発となり、規格外に格下げになるものも出ています。被害粒の割合が非常に多いため、防除していない圃場では色彩選別機を通すと半作以下になるところもありました。

今後さらに発生頭数が多くなれば収穫量は確保しても大半が被害粒で落とされるため、精米製品としての量が確保できなくなる恐れを含みます。

関西以西では高温耐暑性品種の導入が進み、品質が向上していたところですが、地域ぐるみで基幹防除を徹底し、カメムシ類の密度を減らすよう取り組みましょう。

野菜

タマネギ(播種栽培)

【栽培品種の選定】

常食野菜のタマネギは、一年を通して消費する量が最も多い身近な野菜です。家庭菜園や営農など、栽培と取り組み方はそれぞれですが、ご自身の目的に応じた種類・品種の選定を行なって栽培に取り組みましょう。

【栽培のポイント】

◆定植について

タマネギは種から育てることもできますが、購入した苗を定植するのが一般的です。定植日が決まったら、事前に圃場の準備をしましょう。

①施肥

定植の2週間前に、1㎡当り完熟堆肥を5kg、石灰資材を100g、りん酸資材を50gおよび「野菜189」を120g施して後期耕うんし、高さ15cm、幅120cm程度(使用するマルチの幅に合わせて)の畝を作ります。最近では追肥の必要がない「タマネギ1発肥料」も販売していますので家庭菜園では元肥としてそれらを使用すると手間もかかりません。

②定植

苗は、草丈20〜25cm、茎の太さ6〜8mm程度のものが理想的です。茎の太いものはとう立ちする確率が高くなり、タマネギが大きくなります。茎の太さが1cmを超えると極端にとう立ち率が高くなるので避けたいですが、一般的にはとう立ち率1〜2割の圃場で収穫重量が最大になると言われます。

購入苗の場合、苗は乾燥状態となっています。苗の保管は風や直射日光に当たらないよう注意し、できるだけ早く定植するようにします。定植前は水を張った桶などで吸水させて定植しましょう。

専用マルチを使用する場合は間隔に合わせて定植していきます。専用マルチを使用しない場合は、株間10〜15cm、条間20cmを目安に定植します。

苗は深植えにすると縦長球になるので深さ2〜3cmとし、葉の分岐点より上に土がかからないように注意しましょう。

定植後は活着を促すためたつぷり灌水し、乾燥防止、霜害抑制のため



め株もともみ殻などを施します。

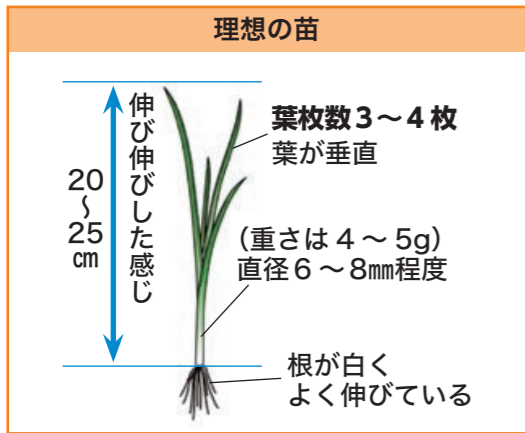
◆定植後の管理

追肥は1月、2月、3月のそれぞれ月上旬に1㎡当たり50g程度行ないます。3月下旬以降に追肥を行なうと、とう立ちが多くなり、貯蔵性も悪くなるので注意しましょう。

タマネギは収穫するまで肥大を続けます。春先乾燥するようなら、適宜灌水するようにしましょう。

タマネギで最大の病害であるペト病は、激発すると肥大が抑制され収穫量の減少につながります。3月から定期的に「タコニール1000」などの殺菌剤を散布するようにしましょう。また、中・晩性種で長く貯蔵する場合、収穫前1週間を目安に「トップジンM水和剤」500〜1000倍を散布すれば貯蔵中の腐敗を大幅に減らすことができます。

種類	品種	特徴
早生種 11月上旬定植 5月上〜中旬収穫	ソニック マツハなど	収穫時期は早いですが、貯蔵性は劣るので消費、販売に合わせて植え付け本数を決めましょう。
中・晩生種 11月上〜中旬定植 6月上〜中旬収穫	もみじ3号 ネオアースなど	収穫時期は遅いですが、貯蔵性に優れるため長く楽しめます。大玉に作るため収穫後、痛みが多くなるので栽培密度に注意しましょう。




東広島市からのお知らせ

農林業センサス調査員募集中!

東広島市では現在、「農林業センサス」という統計調査の調査員を募集しています。

農林業センサス調査員とは?	農家や林家を訪問して調査内容を説明の上、 調査用紙を配ったり、回収したりする調査員 のことです。
報酬	約 25,000円～60,000円 担当する調査区の数や種類によって異なります。
任期	令和7年1月～3月(約2カ月)
事務打ち合わせ会	引き受けてくれた方を対象に、調査方法などを説明する事務打ち合わせ会を開催します。(令和7年1月開催予定)
主な業務	① 名簿を基に農林家を訪問。 ② 一定規模以上の農林業を営む方に、調査用紙を配布。 ③ インターネット回答または郵送回答しなかった世帯から調査用紙を回収。 ④ 書類の確認を行ない、市に提出。 一人の調査員で 1～4調査区を担当 していただきます。

申し込み方法 市ホームページまたはお電話 **東広島市 農林業センサス** 
お問い合わせ：総務部DX推進監 Tel (082)420-0944



アグリセンター 休日営業終了のお知らせ

令和6年度のアグリセンター休日営業は、**10月14日(月・祝)**をもちまして終了させていただきます。ご理解の程よろしく申し上げます。

東広島市 園芸センターより

東広島市花き生産講座受講者を募集しています

切花トルコギキョウを栽培、出荷してみませんか?

- 内容：トルコギキョウの露地栽培
- 対象：(1)東広島市在住で市内に耕作地を確保している方
(2) 出荷販売を目的に栽培を行なう方
- 期間：11月から、月1回程度、金曜日の午後中心!
- 受講料：無料
- 定員：先着10名
- 申込期間：10月1日(火)～10月31日(木)

申込・問い合わせ
東広島市園芸センター Tel (082)433-4411



▲種まきから収穫までを実習



▲盆や彼岸、咲かせ方はいろいろ!